

整形外科領域と
フレイル

7

松井 康素¹ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターロコモフレイルセンターセンター長/
ロコモフレイル診療部部长

KEY WORDS

フレイル / 整形外科 / ロコモ / 骨粗鬆症性骨折 / 変形性関節症

抄 録

フレイルは、身体的、精神心理的、社会的脆弱性を
含む多面的な概念であるが、身体的虚弱の占めるウエ
イトは大きく、整形外科領域の疾患や障害が原因とな
る場合が少なくない。整形外科領域でフレイルの原因
となりやすい疾患は、類似の概念であるロコモの原因
の3つの代表的な疾患と考えてよく、骨粗鬆症（に
伴う脆弱性骨折）、変形性関節症、脊椎疾患であり、
中でも特に骨粗鬆症性骨折でフレイルに陥りやすい。
文献的にも骨粗鬆症ならびに骨粗鬆症性骨折とフレ
イル、変形性関節症とフレイルの関連が報告されてい
る。フレイルとロコモを同時判定でみた両者の関連で
はロコモはフレイルの一部というより、むしろロコモ
になっている人の一部がフレイルになっていた。

フレイルは加齢に伴うストレスに対する予備能力低
下と言えるが、予備能力の多くを担うのは恐らく骨格
筋であり、骨格筋は運動や動作の動力源で、その維
持、増強がフレイルの予防改善に肝要となる。骨とと
もに骨格筋に対し、主に整形外科、老年科の双方が協
力し、また多職種を交えてのアプローチを進めていく
べきである。

I はじめに

フレイルは加齢に伴う予備能力低下のため、ストレ
スに対する回復力が低下した状態であり、要介護状態
に至る前段階として位置づけられる。フレイルは、身
体的脆弱性のみでなく、精神心理的脆弱性、社会的脆
弱性も含む多面的な概念であるが、やはり身体的虚弱
の占めるウエイトは大きい。中でも整形外科で扱う運
動器の疾患あるいは障害が原因となる場合が少なく
なく、これらはまた類似の疾患概念であるロコモの原
因でもある。

本稿では整形外科領域の中で最もフレイルに陥りや
すい骨粗鬆症・骨粗鬆症性骨折や関節症についてのフ
レイルに関連する最近の報告を紹介し、さらに脊椎疾
患については手術に関連するものにつき簡単に触れ、
最後に整形外科学会が提唱するロコモとフレイルの関
連について、両者を同時評価した結果をもとに述べて
みたい（フレイルについての日常診療の上で参考にし
て頂ければ幸いである）。

¹ Yasumoto Matsui
〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430
E-mail : matsui@ncgg.go.jp

[COI] 報告すべき COI はない。